

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成26年度農作物病虫害発生予察情報について

平成26年度農作物病虫害発生予報第11号を發表したので送付します。

平成26年度農作物病虫害発生予報第11号

平成26年12月1日
徳島県

I. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が20.0%, 発病度が2.9であり, 平年(0%, 0)と比べてやや高めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので, 肥培管理に注意する。
- (2) 多湿環境は発病を著しく助長するので, 施設内が過湿にならないように十分に換気を行なう。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので, できるだけ早く摘み取って, ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので, 薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行なう。特に, 下葉には丁寧に散布する。
- (5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので, 発生を認めたら散布間隔を短縮して, 集中的に薬剤散布を行なう。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が10.0%, 寄生葉率が0.1%であり, 平年(36.0%, 3.6%)と比べてやや低めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するように丁寧に散布する。

冬春ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が50.0%, 発病葉率が 1.2%であり, 平年(10.2%, 0.5%)よりやや高めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので, 初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し, 病原菌密度の低下に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が33.3%で, 平年(22.6%)と比べてやや高めの発生であるが, 発病葉率は 0.3%で, 平年(1.4%)と比べてやや低めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので, できるだけ早く摘み取って, ハウス外で処分する。
- (2) 発生が多くなると防除が困難になるので, 初期防除に努める。薬液は下葉の葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので, 薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

タバココナジラミ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が66.7%で, 平年(36.9%)と比べてやや高めの発生であるが, 寄生葉率は 2.2%で, 平年(3.7%)よりやや低めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が33.3%, 寄生葉率が 0.5%であり, 平年(0%, 0%)と比べてやや高めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ミナミキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、寄生葉率が7.5%、被害果率が0%で、ほぼ平年(69.1%、9.3%、1.3%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラナ科野菜共通

黒腐病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)11月前半のキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が30.0%、発病度が3.8であり、ほぼ平年(32.0%、2.0)並の発生である。
- (2)11月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ない見込みとされている。また、気温はほぼ平年並、降水量は平年並が多い、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除効果が見られなくなるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。特に強風雨の後にはできるだけ速やかに薬剤散布を行なう。
- (2)害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も確実に行なう。
- (3)被害残渣は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)11月前半のキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が75.0%で、平年(55.7%)と比べてやや高めの発生であるが、寄生株率は10.6%で、平年(10.6%)並の発生である。
- (2)11月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ない見込みとされている。また、気温はほぼ平年並、降水量は平年並が多い、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1)11月前半のキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が25.0%、10株当たり幼虫及び蛹数が2.7頭であり、平年(13.2%、0.1頭)と比べてやや高めの発生である。
- (2)11月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ない見込みとされている。また、気温はほぼ平年並、降水量は平年並が多い、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生に中間的な気

象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。葉裏に生息しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 5.4%, 発病度が 0.1)。
- (2) 11月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ない見込みとされている。また、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 県内では、べと病菌レース8による発病が確認されているので、レース8以上の抵抗性品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。
- (2) 平均気温が8~18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (4) 葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が30.3%, 寄生程度指数は0.9)。
- (2) 11月27日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ない見込みとされている。また、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多い、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生に中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が 7.1%, 発病葉率が 0.6%であり、ほぼ平年(9.1%, 0.4%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。

- (2)罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3)古葉は早めに除去し、薬剤が葉裏に充分かかるように丁寧に散布する。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (5)展着剤は加用するのが望ましい。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生圃場率が28.6%、寄生株率が5.7%であり、ほぼ平年(30.8%、3.9%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3)アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生圃場率が42.9%で、平年(45.6%)並の発生であるが、寄生葉率は9.3%で、平年(5.8%)よりやや高めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

II. その他

- 薬剤の使用にあたっては、必ず農薬ラベルの記載事項を遵守して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。